

仕事と住まいのワンセットプロジェクト

【プロジェクトの目的】村に移住を希望する若者等への移住支援（定住支援を含む）を目的とします。

ステップ1 情報を共有し村の現状を『把握する』（平成 25 年度）

- 村の人口の現状：高齢者と若年層の人口が激減している。
- 村の産業の現状：村内の就業者数は減少しているが、村内にはまだまだ働く場所が存在する。
- 村の住宅と集落の現状：歴史的価値を持つ住宅や、美しいたたずまいの集落が多く存在する。

ステップ2 村の進むべき方向性を『動き考える』（平成 25 年度）

ディスカッション

統計等のデータから
村の現状等について
意見交換をする

ヒアリング(その1)

村内の事業所に伺い
直接、村に対する
意見などを聞く

アンケート

新たな施策の
イメージについて
アンケートで尋ねる

ヒアリング(その2)

アンケート結果を
ふまえ、再度
ヒアリングして事業
者の意向を確認する

先進地事例視察1

定住促進及び事業所
活性化を図るため
20 年以上前から積極
的にUターン者
受入を行っている
群馬県上野村を視察

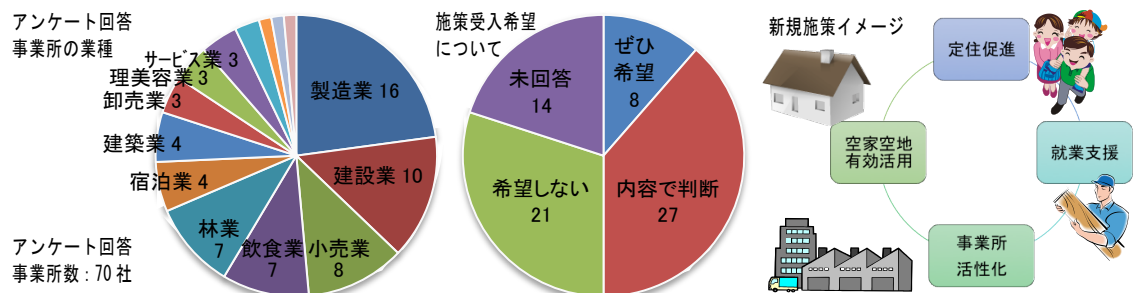
人口減少対策として新たな定住者の呼び込みだけでなく村内高齢者が村外へ移転しないよう対策が必要/Uターン者を増やすため村内に住み続ける親を村外に移転させない対策が必要/頑張っている事業所や村の生活にかかせない事業所には積極的な支援が必要/後継者不足で困っている事業所に対し村も一緒に考えなくてはいけない



ディスカッションの様子

後継者がいればもっと頑張れる/70 歳が一つの区切り/人を増やしたい/跡継ぎがおらず名産品が途絶える/需要は多いが生産がおいつかない/地元木材を使って何かをしたい/村づくりに係わりたい/村に協力したい/設備投資をしたい/元気なうちは続ける/人手が足りない/技術者育成に 4～5 年かかる/売上が 10 年前の 1/3 程度/借金がありやめられない/取引先が遠方でコスト高となっている

ヒアリング事業所（順不同） 岡仁/中川米穀店/貝谷製麺所/山鳩湯/朝日館/春亮木材/菊谷木工所/大前豆腐/松本商会/喫茶秀/栗山理容所/東谷製作所/マルヤ製箸/井上石油/山峯建設/すぎた測量



正社員ではなくパート採用したい/自分達もUターン者で苦労し甘くはないが協力したい/柿の葉寿司は売れる、個人事業主が4、5ヵ所あり共同作業できればおもしろい/閉店のための準備中/事業継承には資格が必要/村内にまとまった土地があれば是非戻りたい/求人しているが応募なし/外出が不自由な人のため出張理美容サービスをしてあげたい/施策への協力はしたいが人材を見極めたい/山の仕事を継いで貰いたい、やめると言う無責任な事はできない/村民生活のため事業継続したい

ヒアリング事業所（順不同）《建設》池田鉄建/カネマツ《製造》貝谷製麺所/春亮木材/菊谷木工所/東谷製作所《卸売》ヨシミ《小売》十起商店/井上石油/中川米穀店《飲食》すぎもと弁当/シーズン/からおけたかちゃん《宿泊》民宿うえむら/朝日館《運輸》川上運送《理美容》榎谷美容所《大工》岡本建築《林業》ヤマツ/前田林業/下西

行政が主体となって雇用の創出や住宅の建設を積極的に行うなど移住者の受入体制が万全だった



上野村職員より説明を受ける



雇用創出のため村が運営するきのこセンター



移住者のための村営住宅

先進地事例視察2

移住希望者へのアプローチ方法や情報発信すべきコンテンツを学ぶため実績のある徳島県神山町及び香川県三豊市を視察

フィールド調査

村内にある住宅の
実態を調べる

徳島県神山町：アートによる地域づくり

1999 年開始した神山アーティスト・イン・レジデンス事業。作家を各国から招聘し、滞在して展覧会等実施。



香川県三豊市：移住者向けHPの運営

空き家情報、定住促進施策、暮らしぶり、求人情報等をポータルサイトで一元的に紹介。



私がみとよにきた理由。

古くに建てられた住宅にもたくさんの良さがある。公営住宅の中には木材が使われていない等、川上村の文化や生活にあっていいのか疑問を持つものもあった。



川上村らしい住宅の調査



村営住宅の見学



住まいるネット登録住宅見学



住宅の建設現場見学

ステップ3 各課横断型のプロジェクトを『実行する』（平成 26 年度）

プロジェクトの立ち上げ

これまでの活動を振り返り
実行するプロジェクト戦略を練る



- 各課で村民のためのサービスを行っているが、それらをつないでいくことを考える必要がある。
- 個別のサービスから考えるのではなく、村民の立場にたって例えば「村民の足をどう考えるか」といった視点で考える必要がある。
- ヒアリング内容を聞き、事業所の人が村を支えているのを強く感じる。一つの事業所がなくなること、色々なところに影響が出ると思う。
- 足を運びヒアリングを行うことで、これまで手の届かなかった所へ村の思いを届けられているように思う。
- 一つ一つの事業所を大切にすることが、村民の生活を支えることにつながる。また、地域の人、村民の生活を支えると言うことは、一つ一つの事業所を大切にすることである。
- みなで共同して地域を作りみなで地域を支え合うと言うことが、川上村が小さいがゆえに、ヒアリング等お互いに言葉をかわすことで感じられると思う。
- ヒアリングを通して得られた思いを、同じように村民一人一人が感じられるよう「みなで支え合って生活しているんだ」と言う雰囲気づくりを行い、情報発信をしていく必要がある。川上村は決してなくならないと思う。
- これまで行ってきた地域振興は補助金助成が主であるが、もっと他にもしなければいけないことがあると感じた。

若者等への移住・定住支援を目的とした「仕事と住まいのワンセットプロジェクト」を実行する

村内において
『働く場』を確保する

村内で起業したい
働きたい
『若者等』を確保する

働く若者等のための
『住まい』を確保する

仕事チーム

住まいチーム

住まいるライフプロジェクト

【プロジェクト外目的】

「子育てと福祉を考えるプロジェクト」として、村に住む若者等への「定住」及び「移住」支援を目的とします。

【取り組みの姿勢】

私たちは『村民の繋がりを大切にする』を基本姿勢としてプロジェクト外に取組みます。

ステップ1 これまでの取り組みをふりかえる ～村の強みとして誇れる『高齢者福祉』～

○県南部の12市町村におけるH24～25年度のデータから、村の高齢者福祉に係る特徴を、プロジェクト勉強会にて探った。

○村の高齢化率は12市町村で最も高い。

○一方で、一人あたりの介護給付金や要介護認定率は12市町村で最も低い。

○この要因は、2000年以前に村が実施したヘルパー養成事業による「村民の修練」の成果とともに、地域の民生委員と社会福祉協議会、診療所、村役場等の「密な連携」によるところが大きい。

○これらが村の高齢者の安心につながり、数値として表れたものと理解した。



プロジェクト勉強会の風景

推計人口（人） H25.12.1		被保険者数（人） H25.12末		高齢化率（％） （被保険者数/推計人口）		1人あたり 介護給付金（円） H24年度		要介護 認定者数（人） H25.12末		認定率（％） （認定者数/被保険者数）	
野迫川村	467	野迫川村	220	大淀町	26.7%	川上村	252,944	野迫川村	60	川上村	16.7%
上北山村	614	上北山村	289	五條市	31.7%	野迫川村	257,660	上北山村	62	大淀町	19.5%
黒滝村	754	黒滝村	384	下市町	38.8%	上北山村	259,981	黒滝村	91	上北山村	21.5%
下北山村	905	下北山村	471	十津川村	42.8%	吉野町	299,369	下北山村	103	五條市	21.8%
天川村	1,420	天川村	718	吉野町	43.9%	大淀町	312,963	川上村	152	下北山村	21.9%
川上村	1,428	川上村	912	上北山村	47.1%	五條市	314,621	天川村	199	東吉野村	22.2%
東吉野村	1,910	東吉野村	1,105	野迫川村	47.1%	東吉野村	320,323	東吉野村	245	吉野町	22.7%
十津川村	3,709	十津川村	1,588	天川村	50.6%	十津川村	331,092	十津川村	480	黒滝村	23.7%
下市町	6,378	下市町	2,476	黒滝村	50.9%	下北山村	336,391	下市町	637	下市町	25.7%
吉野町	7,918	吉野町	3,474	下北山村	52.0%	下市町	354,814	吉野町	790	野迫川村	27.3%
大淀町	18,464	大淀町	4,935	東吉野村	57.9%	天川村	393,755	大淀町	963	天川村	27.7%
五條市	32,598	五條市	10,330	川上村	63.9%	黒滝村	406,240	五條市	2,250	十津川村	30.2%

ステップ2 子どもと保護者に対する村の施策を分析する ～手厚い『助成金』と手薄な『サービス支援』～ ※次頁参照

		出産前	乳幼児	保育園	小学校	中学校	高 校
学 び			のびっこ広場 ブックスタート 読み聞かせ 幼児園庭開放	地域交流 もちつき/焼イモ /高齢者祭り 畑 木製遊具 和太鼓	芸術体験 水のつながりプロジェクト 小学校交流 園庭開放(みんなの広場) 自己表現力 UP 学童保育 カヌー 朝活動 全校給食 親子料理教室	学力の PR 職業体験 スキー教室 木の教室 やまびこ太鼓 ふるさと教育 間伐体験	
				合 同 運 動 会			
	生 活	水痘風疹抗体検査 妊婦相談 赴任治療不育治療 妊娠判定（助成） 妊婦健診（助成）	電話相談 乳幼児検診 各種予防接種 新生児訪問 歯科健診 出産祝品 乳幼児医療（0歳～6歳） 児童手当（0歳～中学卒） ひとり親医療（0歳～高校卒）	子育て相談 保育料 ガン検診 特定健診	地産地消補助金 学校給食補助金 学校牛乳補助金 教育相談 準要保護児童生徒援助費補助金 子ども医療費助成		奨学金貸付 今後検討施策 入学準備金 バス電車交通費助成 高校卒業祝金

千円

特定健診
妊婦健診
妊娠判定受診料
歯科健診・フッ素塗布
定期健診※
任意予防接種・抗体検査
こども定期予防接種

※乳幼児健診・1.6歳児健診
・3歳児健診・フォロー児

2,500

2,000

1,500

1,000

500

0

H21

H22

H23

H24

H25

○子ども数が高齢者数の1割に満たないのに、助成金額は成人対象のがん検診助成に匹敵する金額である。

サービス支援への取り組み（H26 年度事業～）

①学童保育（園庭開放）
（目的）学童保育の対象の有無に限らず、子どもと一緒に遊ばせたい。
（課題）集まる場所とそこまでのアプローチ方法、保育士等の増員など。

②乳児の受け入れ（保育園事業）
（目的）共働き家庭の増加に伴う0歳児保育への要請。
（課題）調理室の整備や保育士等の増員など。

③のびっこ広場
（目的）乳幼児を対象とした遊び場づくり等により親同士の交流促進及び子育てサポート。
（課題）年齢差による遊びのプログラム作りと実施回数の増加など。

④その他
（目的）「自然に触れる体験」や木工遊具等による「木育」。
（課題）地域住民や村の技術者等の人材発掘など。

ステップ3 担当課を超えて連携し、プロジェクトを実行する ※次頁参照

担当課を超えて連携し、「一人ひとりの村民の声を聞く」
その上で村民ニーズ等をふまえたプロジェクトを実行する。

子育てチーム

子育て世代への施策の拡充と新たな施策を考える

福祉チーム

医療や福祉制度の見直しと施策の拡充を考える